

## 荒川水系(埼玉県域)大規模氾濫に関する減災対策協議会 入間川流域部会

### 第6回

- ・実施日：令和4年7月29日(水) 13:30~14:45
- ・場所：Web開催
- ・出席者：別紙のとおり

#### ◆開催状況



(Web会議の様子)



(Web会議の様子)

#### ◆協議会の内容

##### ■入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況について

- ・国の取組状況(荒川上流河川事務所)
- ・埼玉県の取組状況
- ・各自治体の取組状況(川越市、坂戸市、東松山市、川島町)

##### ■その他(令和4年7月12日大雨による出水について)

- ・令和4年7月12日大雨に関する気象情報について
- ・荒川上流管内の出水対応について(荒川上流河川事務所)
- ・埼玉県河川の出水対応について(埼玉県)
- ・各自治体の出水対応について(川越市、坂戸市、東松山市、川島町)

##### ■意見交換

#### ◆取組状況

##### ■荒川上流河川事務所

- ・入間川釘無地区、越辺川紺屋地区において河道掘削、樹木伐採を実施。
- ・都幾川右岸あずま町地区、都幾川左岸下青鳥地区において堤防の嵩上げおよび拡幅を実施。
- ・出水時に水位低下を図るための都幾川遊水地および越辺川遊水地の整備を計画。用排水樋管、初期湛水地の位置や規模に関する検討および各施設の構造等の詳細設計を引き続き実施。
- ・東日本台風被災箇所や重要水防箇所を対象に約25m間隔で越水や決壊を判定する越水センサーを設置。(2022.7.22時点：141台(13箇所))
- ・広域避難計画の支援について、令和3年までは地域ごとブロックに分け、広域避難者数の試算および避難元と避難先の自治体の設定を検討。令和3年度は鴻巣市が避難元となるブロックの広域避難検討会を開催。今後は、協定締結に向けた支援や広域避難におけるタイムラインの構築の支援を引き続き実施予定。

---

## ■埼玉県県土整備部

- ・都幾川においては国との管理境から鞍掛橋までの区間において改良を進めており、令和3年度については用地が確保できた区間の河道掘削や堤防整備を実施。今年度も引き続き用地買収と堤防整備を実施予定。
- ・飯盛川、葛川、九十九川の合流点処理について、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対応できるように令和3年7月に河川整備計画を変更した。これら河川の樹木伐採や土砂撤去は完了しており、現在は、河川整備計画に位置付けられた排水機場や調節池等の設計を実施中。

## ■川越市

- ・市の水害ハザードマップについて、県管理河川の洪水浸水想定区域図（想定最大規模）を反映したほか、防災学習情報の充実や水害時の指定緊急避難場所の情報を更新。更新した水害ハザードマップは、市のホームページに掲載するとともに全戸配布。
- ・市内の東洋大学と協定を締結し、水害時における車両の避難場所を確保。現在、丸広百貨店やマルハンと協定の締結に向けた協議を実施中。
- ・市内に開局したコミュニティFM「小江戸FM」と災害協定を締結し、ラジオによる避難情報の発信を開始。
- ・LINEに川越市公式アカウントを開設し、地震や風水害等の緊急的な防災情報の発信を開始。
- ・都市計画法の改正に伴い、浸水ハザードエリアにおける開発許可等の運用の見直しを実施。浸水深が3m以上である場合、安全上、避難上の対策を申請者に求め、審査を実施した上で開発許可を行うよう変更。

## ■坂戸市

- ・市の防災アプリについて、携帯販売店舗においてチラシを掲示したほか、携帯販売店が開催するスマートフォンの使い方講習会において市職員が防災アプリの使用方法を説明。
- ・毎年継続して行っている排水ポンプ車や水のうの職員による操作・設置訓練を引き続き実施。
- ・NHKとの共同による水害予防に関する啓発を実施。NHKが作成した市内5箇所の最大浸水深を表示したポスターおよび災害に備えた内容を記載したチラシを公共施設で掲示、配布。
- ・トイレカーの販売・貸出しを行う事業者と協定を締結し、災害時の仮設トイレを確保。今年度の防災訓練においてトイレカーを展示予定。
- ・要配慮者利用施設に対し、避難確保計画作成および訓練実施に関するWeb説明会を実施。
- ・関東地方整備局、要配慮者施設、市の共同で避難確保計画に基づく避難訓練を実施。
- ・越辺川・高麗川水害予防組合により、それぞれの重要水防箇所ごとに想定される水防工法を実施する実践的な水防演習を実施。

## ■東松山市

- ・自主防災組織リーダーの養成研修を今年度より新たに自主防災組織の役割を理解するための「基礎編」と基礎編を受講した方または同等の知識・経験を有する方を対象に実践的な研修を行う「応用編」の階層別で実施。今後は、応用編の研修メニューを増やし、体系的に研修を行い、役割を明確にし、地域防災力の核となる自主防災組織リーダーの養成に取り組む。
- ・災害時の市の避難所開設状況および混雑状況を発信するWebアプリのプレリリースを実施。今年度の総合防災訓練で訓練運用後、運用開始を予定。

## ■川島町

- ・町民に対してハザードマップおよびマイ・タイムラインについての説明会を開催。
-

- 
- ・ハザードマップおよびマイ・タイムラインを活用し、中学生を対象とした水害時の行動について学習する防災教育を実施。
  - ・商業施設やコンビニエンスストア等の民間施設における「まるごとまちごとハザードマップ」の看板を設置。
  - ・株式会社バカンと災害協定を締結。町内、町外の避難所の空き情報を町民に提供可能となった。
  - ・町民を対象に、町の歴史的な史実や体験談、東松山市の職員による令和元年東日本台風の状況の説明などを交えた水害シンポジウムを実施。

## ◆令和4年7月12日大雨による出水について

### ■熊谷地方気象台

- ・気象の状況について、日本海の低気圧や上空の寒気の影響で埼玉県では記録的な大雨となり、土砂災害、住家の浸水や道路冠水等の被害があった。
- ・鳩山町で12日10時から13日15時までの総降水量396.5mmを記録するなど主に県中央部で多くの雨が降り、埼玉県のアメダスで歴代1位の日最大1時間降水量111.0mmを鳩山で観測。5～6時間の間に平年7月の1か月分の2倍の雨量に相当の降水を観測。
- ・南寄りと東寄りの暖かく湿った空気が積乱雲を発達させるが、今回はそのように作られた積乱雲が移動せず、埼玉県中央部で停滞してしまったことが大雨の要因。
- ・自治体においては、避難情報の発令判断が必要な場合には、ホットラインを活用し、必要となる気象状況について問い合わせいただければと考えている。また、きわめて甚大な災害の発生が予見される場合等には気象台長の方からホットラインにより市町村長に厳重な警戒を呼びかけることがあるのでよろしくお願いいたします。

### ■荒川上流河川事務所

- ・7月12日の大雨に伴い、入間川流域では、小畔川、都幾川において氾濫危険水位を超過。
- ・管内自治体の記録的短時間大雨情報、土砂災害警戒情報、避難情報について紹介。
- ・リエゾン協定に基づき、鳩山町、東松山市、ときがわ町、坂戸市とホットラインを実施。
- ・基準水位を超えた段階で水防警報や気象台と共同で洪水予報を発表。22時10分に小畔川、22時40分に都幾川で氾濫危険水位に到達し、川越市、東松山市にホットラインを実施。
- ・緊急速報メールによるプッシュ型の情報配信を実施。
- ・坂戸市、東松山市からの派遣要請に伴い、排水ポンプ車を派遣し、排水作業を実施。
- ・13日に入間川、小畔川、越辺川、都幾川、高麗川に職員を派遣し、現地調査を実施。
- ・16日、17日にヘリおよびドローンによる出水後の現況調査を実施。
- ・都幾川右岸5.6km付近の堤防川裏法面のすべり発生箇所において、土のうおよびブルーシートにより応急復旧を実施。
- ・鳩川、越辺川合流部の河岸洗掘発生箇所について、埼玉県東松山県土整備事務所と調整し、国で大型土のうによる応急復旧を実施。
- ・入間川流域緊急治水対策プロジェクトで実施している樹木伐採や河道掘削等の取組が本出水においても水位低減、浸水被害軽減に寄与したと考えられる。

### ■坂戸市

- ・17時3分に大雨注意報、17時46分に洪水注意報が発令され、洪水注意報の発令に伴い、総務
-

---

部防災安全課および都市整備部局で情報収集体制に入った。

- ・坂戸市役所に設置した雨量計では、降り始めから13日7時までの累計で201.0mmを観測。
- ・市職員172名が避難所開設等、水防団員104名がパトロールや通行止め、指定管理者2名が避難所運営の対応に当たった。
- ・市内の水門、樋門を閉鎖するタイミングで避難指示を発令。葛川周辺では21時59分に4地区255世帯604名に、飯盛川周辺では22時49分に2地区451世帯1062名に対し避難指示を発令し、13日6時に避難指示を解除。
- ・市内8箇所の公共施設を避難所として開設し、101名が避難所に避難を行った。
- ・葛川水門では市の排水ポンプ車による排水を実施、飯盛川においては荒川上流河川事務所に排水ポンプ車による排水作業を実施していただいた。
- ・自宅に取り残された2名、急激な冠水により道路に取り残された6名を消防により救助。
- ・住家で床下9件、非住家で床上2件、床下8件の浸水被害。市職員による消毒作業を実施。
- ・道路15箇所、木橋4橋において通行止めを実施。

#### ■東松山市

- ・最も雨量が多かった観測地点の白山中学校では降り始めからの累積雨量340.0mmを観測。
- ・九十九川右岸側の宮鼻地区および九十九川の関越道～笹坂大橋の区間で溢水。九十九川では最高水位が堤防の高さを0.53m上回る水位となった。
- ・12日20時15分に土砂災害警戒区域、20時35分に九十九川流域、22時10分に都幾川流域への避難指示、22時25分に九十九川流域への緊急安全確保が発令され、13日6時10分に全避難情報が解除。
- ・高坂地区、唐子地区において土砂崩れ、道路冠水等の被害。
- ・要救助者4名が消防団により救出。
- ・床上浸水4件、床下浸水13件、車両水没10件の被害。
- ・道路3箇所、緑地1箇所、宅地11箇所（うち1件建物被害あり）の土砂災害が発生。
- ・32箇所の避難所を開設。避難所以外の公共施設への避難者も含む最大避難者数は243名。
- ・入間川流域緊急治水対策プロジェクトで設置した危機管理型水位計および簡易型河川監視カメラが河川状況の監視に有効であり、警戒レベル5発令の判断材料の1つとなった。

#### ■川島町

- ・川島町役場の雨量計で12日20時～13日2時までの6時間雨量で157.5mmを観測。
- ・12日19時頃から監視体制を開始し、21時に大半の職員が参集し、準備体制に入った。
- ・12日22時40分に野本水位計の水位が氾濫危険水位を上回っていたが、真夜中という状況および上流の唐子橋水位計の水位が下がってきていたことから、避難指示は発令しなかった。
- ・一部農道が冠水したが大きな被害はなかった。

#### ■川越市

- ・12日20時4分の大雨警報発表に伴い、防災危機管理室、建設部、上下水道局による監視体制
-

---

を施行。21 時頃から強い雨が降り始め、小畔川の水位が急上昇したことから担当職員を増員し、その後避難判断水位を超えたため、警戒体制を施行し、避難所を開設。13 日 3 時 30 分に小畔川の水位が氾濫注意水位を下回ったため、警戒体制を解除。

- ・深夜であることおよび降雨が続いていたことから、水平避難は危険と判断し、避難指示の発令はせず、防災行政無線および防災情報メールによる小畔川流域の世帯への垂直避難の呼びかけを実施。
- ・2 箇所の避難所を開設。避難者数は合計で 6 名。
- ・床上浸水 2 件、床上浸水 7 件、道路破損 2 件、道路冠水による通行止め 14 件の被害。

## ◆意見交換

### ■東松山市

- ・排水機場および調節池の整備の時期を明らかにして、早期に整備を進めていただきたい。
- ・九十九川水門閉鎖時には、国と県が連携して、排水ポンプ車および照明車の緊急出動を速やかにお願いしたい。

#### ↳■荒川上流河川事務所

- ・ポンプ車および照明車の配備については速やかに対応して参りたい。ゲリラ豪雨での対応は、非常に難しい災害対応であったと感じているが、次の出水に備えて、改善すべきところは改善して、地元の要請に応えられるよう検討していくので、よろしく願いいたします。

### ■川越市

- ・川越市にはアメダスの観測地点がなく、他自治体の観測地点の情報を基に判断をすることとなるため、新たに観測地点を設けてもらうことは可能か。

#### ↳■熊谷地方气象台

- ・各自治体からアメダス新設の要望をいただくが、約 17km 間隔の観測所設置が費用および観測の面から最適であり、予算的にも限界である。気象レーダの観測と自治体の観測所とアメダスや自治体などの雨量計のデータを組み合わせて 1km 四方の細かさで解析した解析雨量という情報を気象庁 HP（今後の雨）で提供しているのでこのような面的な画像を見て判断していただければと考えている。
-

荒川水系(埼玉県域)大規模氾濫に関する減災対策協議会  
第6回 入間川流域部会 出席者名簿

日時・場所: 令和4年7月29日(金) 13:30~14:45 Web開催

機関名	組織名	役職	氏名	備考
川越市	—	市長	川合 善明	
東松山市	—	市長	森田 光一	
坂戸市	総務部	部長	関口 万須美	代理
川島町	—	町長	飯島 和夫	
埼玉県	危機管理防災部	副課長	佐保 貴之	代理
埼玉県	県土整備部 河川砂防課	副課長	永井 儀男	代理
気象庁 熊谷地方气象台	—	台長	蓼沼 信三	
国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所	—	事務所長	大東 淳一	